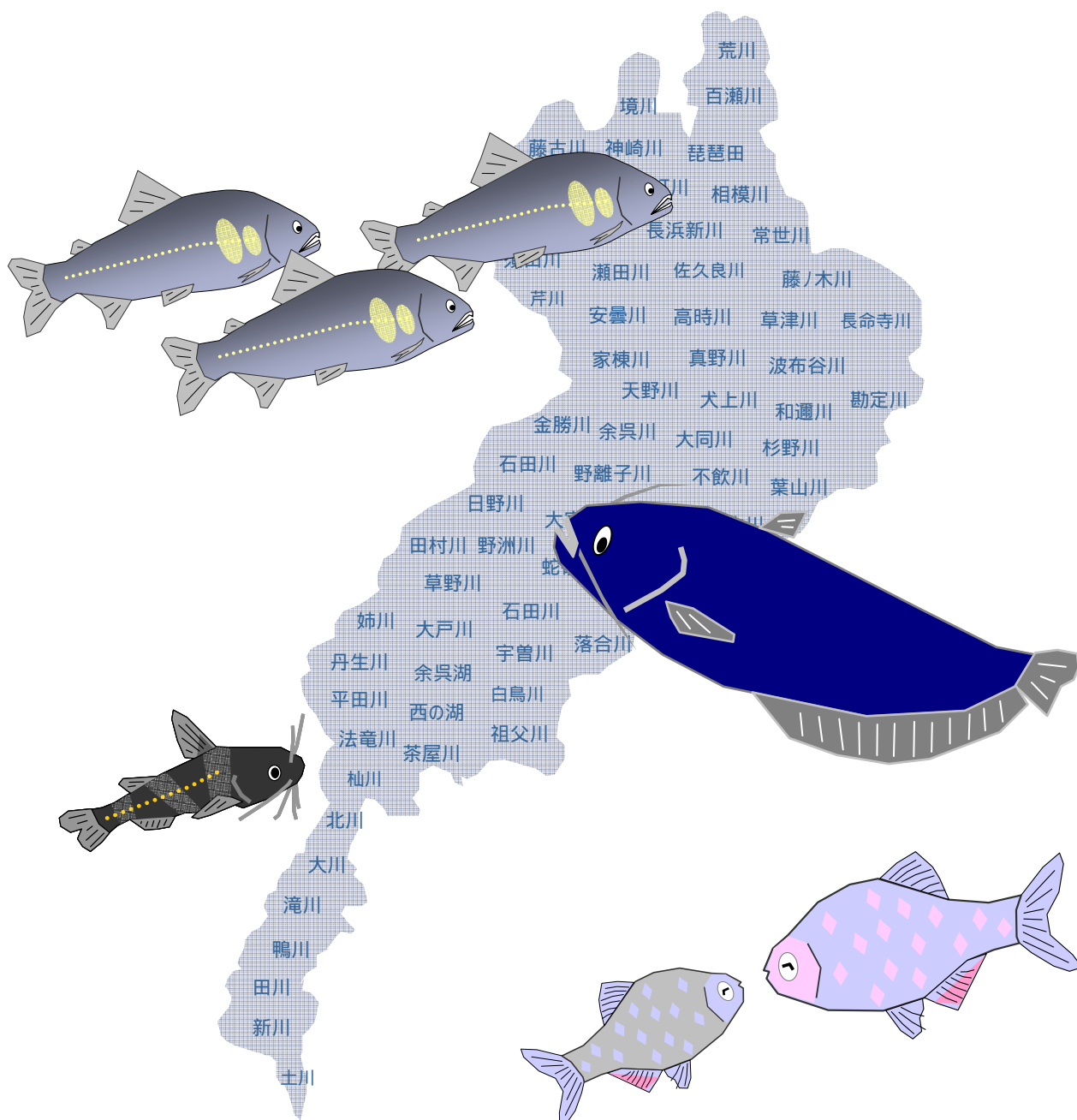


第6回

淡海の川づくりフォーラム

プログラム & 選考用資料



日時：平成25年(2013年)1月14日(月・祝) 9:30~16:30 (受付9:10より)

場所：コラボしが21 3階各会議室

主催：淡海の川づくりフォーラム実行委員会 / 滋賀県

後援：滋賀県河港協会、マザーレイクフォーラムびわコミ会議運営委員会

目次

1. 淡海の川づくりフォーラムの概要	2
2. 大会プログラム	3
3. 会場レイアウト	4
4. 公開選考会の進め方・選考基準、表彰について	5
5. 参加団体一覧・テーブル	6
6. テーブル選考 選考員の紹介	7
7. 全体討論 選考員の紹介	10
8. 総合コーディネーター・コメンテーター & 実行委員会	11
9. 参加団体 活動概要	13

淡海の川づくりフォーラムは、マザーレイク 21 計画に基づく
マザーレイクフォーラムとの連携事業です。



1. 淡海の川づくりフォーラムの概要

淡海の川づくりフォーラムでは、“川や水辺と共生する暮らし”、“川や水辺と私たちのいい関係”について、川や水辺にまつわる活動を実践されている皆さんとともに、公開選考方式のワークショップを通じて、それぞれの交流の中で議論を深め、探ります。

日時 平成 25 年(2013 年)1 月 14 日(月・祝) 9:30~16:30 (9:10 受付開始)

場所 コラボしが 2 1 3 階各会議室

内容 テーブル選考、復活選考、全体討論

テーブル選考(午前)

参加団体が3つのグループに分かれて発表します。

選考員の推薦により全体討論へ

全体討論(午後2)

テーブル選考、復活選考を経て、推薦された“きらり”と光る活動を学びながら、“川や水辺と私たちの関係”について議論を深めていきます。

テーブル選考で十分にアピールできなくても、“きらり”と光る活動には・・・

復活選考(午後1)

テーブル選考では十分に探れなかった大切な活動を全体討論に推薦します。

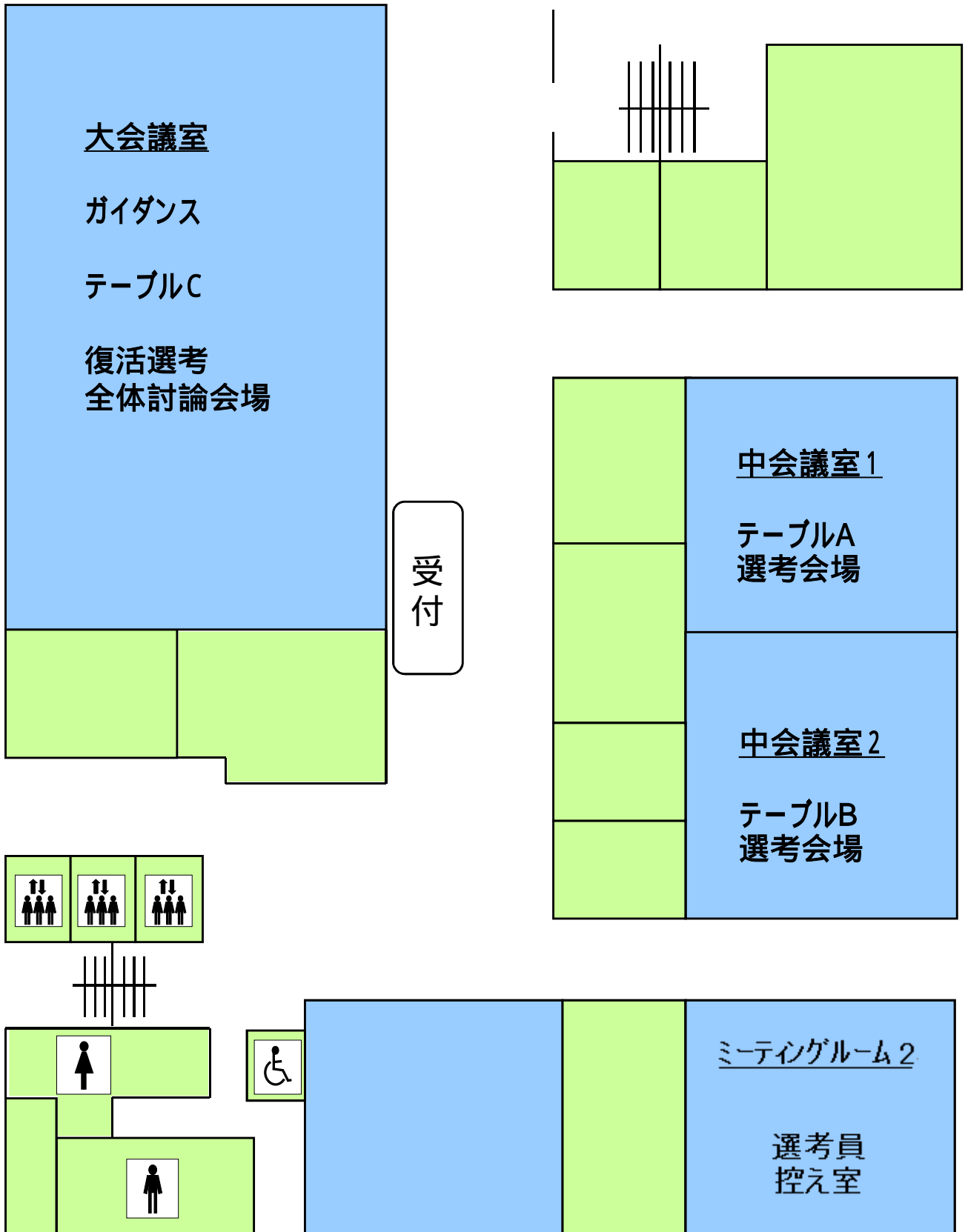
選考員の推薦により全体討論へ

2. 大会プログラム

時間	内 容
9:30 10:00	開会、ガイダンス 大会議室で開会宣言を行い、その後1日の流れを説明します。
10:00 11:30	テーブル選考発表 1)各テーブルに分かれて活動を発表します。(発表時間各5分) 2)発表者と選考員とで議論を深め、全体討論に推薦する“いち押し”の活動を選考します。(テーブルごとに2団体) 3)ここで推薦が得られなかった団体は復活選考に進みます。
11:30 11:45	テーブル選考の結果発表 大会議室で、各テーブルから推薦された団体(計6団体)を発表します。
11:45 12:45	お昼休憩
12:45 13:15	復活選考 1)時間内で自由に選考員に活動内容をアピール 2)復活選考から全体討論に進めるのは3団体程度
13:15 13:30	スペシャルセッション 平成24年 いい川・いい川づくりワークショップ(東京開催)発表報告 【白鳥川の景観を良くする会】吉田栄治さん -第5回淡海の川づくりフォーラム グランプリ受賞団体-
13:30 16:15	全体討論 1)5分間で活動内容を発表 2)選考員・コメンテーターを中心に、明日からの活動の参考になるような、今年いちばん“キラリと光る活動”について、参加者全員でさらに議論を深めていきます。
16:15 16:30	各賞の発表・表彰式 1)「グランプリ」・「準グランプリ」の表彰 2)「河港協会賞」・「マザーレイクフォーラム賞」の表彰

3. 会場レイアウト

コラボしが21 3階



4. 公開選考会の進め方・選考基準、表彰について

(1) 公開選考会の進め方について

- ・ 選考会は、一次選考 復活選考 全体選考(公開討論会) 表彰の順番で進めていきます。
- ・ 一次選考は3グループ、1テーブル5件の発表となります。
- ・ 選考員は、自らも発表者から情報を得たり、学んだりする姿勢を持ちながら参加者と一緒に“川や水辺と私たちの共生”、“川や水辺と私たちのいい関係”とは何かを探求する立場にあります。議論や選考は、後戻りや批判をすることなく、創造的に深めていくことを心がけてください。

(2) 選考基準

- ・ 伝統的な文化と新しい文化が出会い融合する湖国滋賀にふさわしい“川や水辺と私たちの共生”、“川や水辺と私たちとのいい関係”を探ります。
- ・ 内容の長所を評価する加点方式とし、短所は減点の対象としません。
- ・ 公開選考会は、以下の4つのポイントにおいて総合評価します。

- 1) 発想・着眼評価：“川や水辺と私たちのいい関係”をめざすための斬新な発想や着眼、的確な視点についての評価
- 2) 関わり評価：地域住民と水辺との豊かで良好な関わり合いについての評価
- 3) プロセス評価：市民・住民参加や、さまざまな分野の人たちとの協働のプロセスについての評価
- 4) 計画・技術評価：“川や水辺と私たちの共生”のために工夫された計画手法や採用技術についての評価

(3) 表彰

【グランプリ・準グランプリ】

- ・ 上記の選考基準により、審査する時点の流域・地域の情勢も踏まえ、“水辺と私たちの共生”、“水辺と私たちのいい関係”のモデルとなる活動を選考します。
- ・ 上記の選考基準により、仲間たちに希望を与える活動を選考します。

【河港協会賞(いい川づくり賞)】

- ・ 上記の選考基準とは別の視点から、今後の淡海のいい川づくり・いい湖づくりの(事業)推進に向けて貢献する活動を選考します。
- ・ テーブル選考で推薦されなかった団体も含めて、すべての参加団体が受賞の候補となります。

【マザーレイクフォーラム賞】・・・今回新設

- ・ 上記の選考基準とは別の視点から、マザーレイク21計画の目標達成に向けて貢献する活動を選考します。
- ・ テーブル選考で推薦されなかった団体も含めて、すべての参加団体が受賞の候補となります。

5. 参加団体一覧・テーブル

(敬称略)

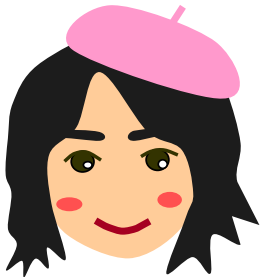
	グループ名	代表者	発表者
テーブルA	A-1 勝部自治会	藤本律男	小林珠美、長谷川浩、櫻井聡明
	A-2 愛知川塾	村山邦博	辻 泰一、村山邦博、水上博行、西村 操、 山田幸平、佐藤多歌子、橋本吟蔵、大蔵勢一郎、 黒川 薫、大辻善裕、岡本 修、吉田嘉久、 辻 康弘、北川喜代一、川村正司、八田野幸一
	A-3 山内エコクラブ	竜王みやび	岡田夏蓮、竜王将史、馬場 柚、井口朋穂
	A-4 滋賀県湖東土木事務所	北川洋平	伊賀並順一、土坂 等、谷本龍二、狩野俊男、 北川洋平
	A-5 琵琶湖河川レンジャー有志	池本裕子	池本裕子
テーブルB	B-1 NPO法人瀬田川リパプレ隊	富岡親憲	朝田雅夫、伊藤達也、美濃部進、井上孝夫、 富岡親憲、谷村 信、後藤三郎
	B-2 琵琶湖博物館 環境学習センター	桑原雅之	池田 勝、正阿彌崇子
	B-3 東近江市立能登川南小学校	佐伯健次	東條 佑、大橋和奏、吉村実紗、富江陽菜、 羽根龍司、石井晴也、黒田和花、清水悠依里、 月瀬 凜、脇 直也、上尾航平、緒方峻太、 池田健悟、馬場 梓、日夏正昭、有川智章
	B-4 公益財団法人 京都地域創造基金 (母なる川・保津川基金)	深尾昌峰	鈴木康久、原芙佑子
	B-5 いきものみつけファーム滋賀推進協議会	森 繁樹	竜王真紀、井阪尚司
テーブルC	C-1 巨木と水源の郷をまもる会	青木 繁	青木 繁、小松明美、高村洋司、河村良子
	C-2 竜王清流会	長江とみ江	長江とみ江、川部治夫、菱田三男、澤井康夫、 田中千代美、田中秀樹、崎山良子、岩田宏之
	C-3 アイキッズ ～エコアイデアキッズびわ湖～	増淵貞夫	陳 瑞林、堤まいか、瀧 有伽、林 ひな、 林 祐央、杉浦直樹、中村大輔
	C-4 徳山環境保全会	田中武志	西川哲夫、平野 敏、西川長代、大森英子、 田中武志、西川又寛
	C-5 おにぐるみの学校	小林圭介	山崎彰吾、廣部勝己
	計		15 団体

6. テーブル選考 選考員プロフィール

(五十音順)

テーブル A

(テーブル・コーディネーター)



小丸 和恵 (こまる かずえ) / NPO法人子どもと川とまちのフォーラム 理事

大阪府生まれ、愛媛県と京都府育ち。昨年夏、びわ湖の近くに越してきた。「『子どもが育つ流域の再生』のためには、世代や立場、分野の壁を越えて人々が信頼関係のもと、つながることが大切」との思いから、ライフワークとしての活動を続けて、十数年。

活動のフィールドを川から森に広げ、「あるもん」を利用したモノづくりと流通をめざして「arumonde」事業の準備も進めている。

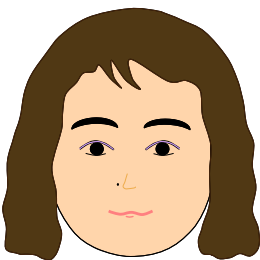
(選考員)



金尾 滋史 (かなお しげふみ) / 琵琶湖博物館 学芸員

1980年広島県生まれ。当時学長をしていた日高敏隆先生と琵琶湖の魚に憧れ、滋賀県立大学へ入学。その後同大学院、多賀町立博物館学芸員を経て現職。専門は淡水魚の保全生態学。

学生時代から地域の川づくり、河川・田んぼでの環境教育にいろいろと参画してきた。現在は、地域の子どもたちに囲まれながら、「学」と「芸」を両立させるカリスマ学芸員を目指して日々修行中。



小坂 育子 (こさか いくこ) / 子ども流域文化研究所 代表

三重県生まれ。水と文化研究会・子ども流域文化研究所・地元学ネットワーク近畿。「水と人とモノの関わり」にある身近な水環境を通して、それぞれの地域の暮らしにあるいろいろな仕組みを学びながら「ムラの元気応援団」をめざしている。



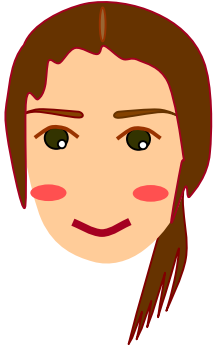
三和 伸彦 (みわ のぶひこ) / 琵琶湖政策課 参事

1963年滋賀県長浜市生まれ。87年化学の技術職員として滋賀県に入庁後、環境政策課やエコライフ推進課など、一貫して環境行政を担当。

地元では湖北のタウン誌「長浜み～な」のボランティアスタッフとして、ふるさとの再発見をライフワークに、日々の暮らしの中で豊かさや幸せを感じられる心のあり方を模索中。

テーブル B

(テーブル・コーディネーター)



菊池 玲奈 (きくち れいな) / 結・社会デザイン事務所

2002年10月から約2年、霞ヶ浦の環境保全などに取り組むNPO法人アサザ基金に勤務。2004年10月から約4年、東京大学大学院保全生態学研究室にて、市民・研究者協働による生物多様性保全に関する実践的研究に携わる。

現在、滋賀県に移り住み、環境保全に関するさまざまなプロジェクトのコーディネートや講演などを中心に活動中。

(選考員)



青田 朋恵 (あおた ともえ) / 農村振興課 にぎわう農村推進室 副参事

仕事では、「世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策」や「魚のゆりかご水田プロジェクト」などに携わり、生物多様性と農村の活性化などについて考えています。農山村が、いつまでも元気で明るくあって欲しいと願い、そのために何が出来るか、自分の無力さを感じつつも、日々悪戦苦闘しています！

プライベートでは、農山村に古くから伝わる郷土料理や食材に魅せられて、常に鼻をきかせ、いいにおいのする方向へは猪突猛進していきます。



野崎 信宏 (のざき のぶひろ) / 流域政策局 河川・港湾室長

1961年滋賀県大津市生まれ。84年土木技術職として滋賀県に入庁。

以前は都市計画行政に携わることが多かったが、98年以降は河川行政を中心に担当。若い頃は、カヌーで各地の川に親しんでいたが、最近は半分仕事、半分遊びで川歩き、山歩き。2010年には大津市内の一級河川をほぼ踏破。

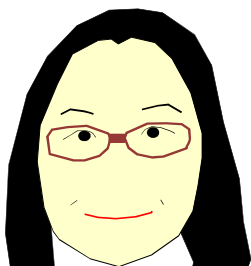


村上 悟 (むらかみ さとる) / NPO碧いびわ湖 代表理事

旧余呉町生まれ。幼少のころから湖北地域をフィールドに魚や水鳥の研究や水辺環境の保全活動に携わる。2009年7月から現職に就き、地域の自然の営みと調和した「暮らし」を、力を合わせて形にしていく事業・運動に取り組む。最近ではヨシを壁面に使った東屋づくりをコーディネートした。

テーブル C

(テーブル・コーディネーター)



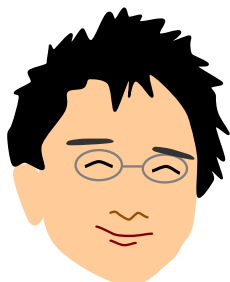
さとうひさ系 / 天若湖アートプロジェクト 2011 実行委員長

静岡県浜松市生まれ。京都芸術短期大学卒業後、2002 年アートと市民をつなぐ NPO「アート・プランまぜまぜ」を設立。現理事長。

2005 年からは桂川流域ネットワークとともに桂川の流域連携を目的にした「天若湖アートプロジェクト / あかりがつなく記憶」を毎年開催。日吉ダムに沈んだ村のあかりをダム湖に灯す巨大アートは地域の風物詩として定着しつつある。

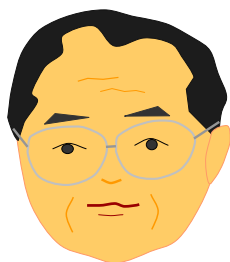
これからも、アートの力で地域を再発見する試みに挑戦していきたいと思っています。

(選考員)



佐藤 祐一(さとう ゆういち) / 琵琶湖環境科学研究センター 研究員

専門は「なんでも屋」。水質や魚のシミュレーション、環境・社会調査、環境計画づくり、オペレーションズ・リサーチ、ワークショップのファシリテーターなど、とにかく広く関わることで見えてくる「何か」を探して日夜研究活動中。2008 年から 3 年間は、市民参画により琵琶湖流域の将来像を描くプロジェクトの事務局を担当。その結果はマザーレイク 21 計画の将来像として取り入れられた。



杉本 良作(すぎもと りょうさく) / 砂防広報センター 技師長

専門は防災(河川、砂防)で、県内の砂防ボランティアと防災エキスパートに参加しながら、砂防広報センター(NPO)でアドバイザーとして活動。

信楽と大津と東京を往復しつつ、琵琶湖(大戸川も含む)を眺めながら、湖辺と川岸と山林を歩いている。数年前には防災で発表者としても参加している。そのときの経験から短時間での発表の難しさを身にしみて知っている。



山口 美知子(やまぐち みちこ) / 滋賀地方自治研究センター 理事

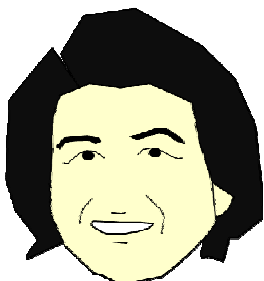
滋賀県長浜市(高月町)生まれ。林業技師として滋賀県入庁後、2012 年 3 月から東近江市職員(企画部緑の分権改革課)となる。仕事以外では、持続可能な地域モデルを検討する「滋賀地方自治研究センターびわ湖プロジェクト」、琵琶湖の森を元気にする活動をしている「kikito」、市民活動を支える中間支援組織「NPO 法人まちづくりネット東近江」等に参加している。

7. 全体討論 選考員

(五十音順)

朴 恵淑 (ぱく けいしゅく) /

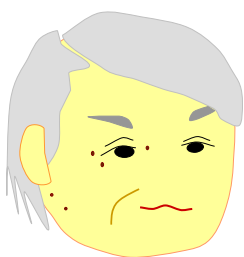
三重大学理事・副学長 (環境・国際・男女共同参画担当)



1954年韓国ソウル生まれ。日韓の架け橋として、大気汚染や地球温暖化、水環境保全、環境教育に関わっています。3・11の東日本大震災により、環境の大切さに気づき、絆の素晴らしさに気づき、未来に希望をつなぐことに皆、必死で取り組んでいます。

「第6回淡海の川づくりフォーラム」が、青いゴールドと呼ばれる水資源や水環境の大切さに気づき、日本を動かす大きなムーブメントとなれるよう、頑張ります。

松尾 則長 (まつお のりなが) / 犬上川を豊かにする会

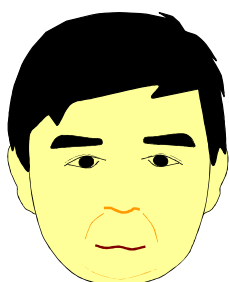


2001年の川づくり会議の地域委員をきっかけに流域の深みに溺れてしまい、その流れから立ち上がった「犬上川を豊かにする会」に参加。

設立まもない同会が2003年第3回世界水フォーラム in 滋賀の東京プレ・水フォーラムにパネラーとして参加し、力不足を痛感し今日に至っています。

流域自治会、学生達とともに協働をはかり、犬上川の管理をサポートする会です。

遊磨 正秀 (ゆうま まさひで) / 龍谷大学理工学部教授



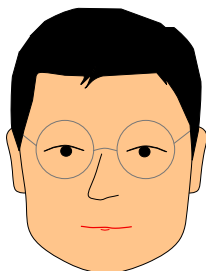
1954年3月、山口県生まれ。京都大学理学部卒業、京都大学大学院理学研究科修士課程・博士後期課程修了。琵琶湖博物館準備室、京都大学生態学研究センター助教授を経て、龍谷大学理工学部教授。

ホタルの舞う水辺について想いをめぐらし、魚の喜怒哀楽を水中で見つめ、川のあり方も生き物に問う。社会貢献の一環として国内外でスケートの審判をつとめる。

8 . 総合コーディネーター・コメンテーター & 実行委員会

(総合コーディネーター)

福廣 勝介(ふくひろ しょうすけ) / NPO法人 近畿水の塾 理事長



京都大学農学部林学科卒業後、日本住宅公団(住宅都市整備公団を経て現・(独)都市再生機構)に入社、主に集合住宅の屋外の計画設計を担当。現在は(財)住宅管理協会関西支部で団地管理に従事。住民活動では、NPO法人「近畿水の塾」代表理事、「川の会・名張」代表、NPO法人「全国水環境交流会」理事。自然復元系や協働の仕事に関心がある。昭和24年、三重県伊賀(名張市)に生まれ、爾来、数年間を除き名張住まい。関心事は、山・川・人との付き合い。団地故郷作り。脱近代。

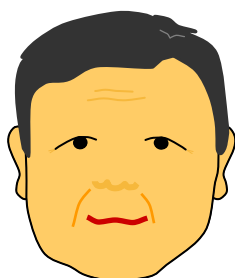
(コメンテーター)

嘉田 由紀子(かた ゆきこ) / 滋賀県 知事



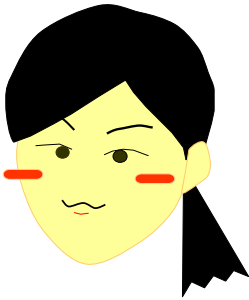
埼玉県生まれ。京都大学農学部卒業、ウィスコンシン大学大学院修士課程(農村社会学)修了、京都大学大学院農学研究科博士後期課程修了。琵琶湖研究所研究員、琵琶湖博物館総括学芸員、京都精華大学人文学部教授を経て、滋賀県知事に就任。好きな食べ物はふな寿司、ニンナス、ぜいたく煮。趣味はカラオケ、孫と過ごすこと。特技は手打ちうどん、地図が読める。座右の銘、「まっすぐに、しなやかに」。

片寄 俊秀(かたよせ としひで) / 大阪人間科学大学 教授



水辺と下町の同時的再生こそが、人類の明日に、ほのかな<希望>をもたらすと信じ行動する「川じじ」。淀川河川レンジャー選考委員長。環境芸術家。まちづくり道場主。技術士・工学博士・一級建築士。著書『プワナトシの歌』『スケッチ全国町並み見学』『千里ニュータウンの研究』『まちづくり道場へようこそ』『いい川・いい川づくり最前線(共著)』『いいまちづくりが防災の基本』『日本の石橋・世界の石橋スケッチ集』など。

(実行委員会)



北井 香(きたい かおり) / NPO法人木野環境

奈良県山辺郡山添村生まれ。興味があるのは田んぼ、農村の文化、そこで生きる人、日々重ねられた生活。子ども流域文化研究所での過去の水害聞き取り調査に従事し、現在は京都の NPO法人 木野環境に所属。「持続可能な社会をつくる」という理念に沿えば何でもテーマになる団体で、ここ数年は、滋賀の農山村の情報発信業務などにに関わり、県内各地へ。2009 年に流域治水検討委員会(住民会議)を母体とした淡海の川づくりフォーラム実行委員会を立ち上げ、現在、実行委員長。

(流域治水検討委員会(住民会議) 実行委員会)



大橋さん



杉本さん



松尾さん



中井さん



柴田さん



石津さん



齒黒さん



成宮さん



中村さん



多々納さん

9 . 参加団体 活動概要

(A - 1)

団 体 名	勝部自治会
活 動 概 要	地域の防災、親水、伝統を繋ぐ活動
川や水辺の名称	勝部自治会内 ^{かつべじちかい} たちばな川 (^{かえでさんどう} 楓三道) を含む 9 河川およびその支流となる水路、かつべほたる北の道 (^{いまじゅくがわ} 今宿川)、かつべほたる南の道 (^{なこうずがわ} 中水川) (守山市勝部 1 丁目 ~ 勝部 6 丁目および勝部町)
発 表 内 容	<p>勝部は、J R 守山駅前の便利な所に位置するにもかかわらず、まち中を川や水路が縦横に走り、水辺の空間が、網の目のように巡っています。また、町内には、守山学区の 4 つの教育機関も集まっており、川や川沿いの田畑は、生活科の学習、サツマイモ栽培、菜種作り、米作りといった体験学習の場にもなっています。そして、毎年 1 月に行われている勝部の火まつりは、これらの川や水路と共に、800 年の伝統を今に伝えています。</p> <p>町内の川や水路は、田畑を潤すことはもちろんのこと、防災、親水、伝統を繋ぐといった役割も担って、今日 (こんにち) に至っています。</p> <p>当自治会が、この地域らしさを生かして { 防災、親水、伝統を繋ぐ } ために取り組んでいること、これからもその努力を続けたいと考えていること等をお話したいと思えます。</p>

(A - 2)

団 体 名	愛知川塾
活 動 概 要	東近江市の代表河川である愛知川を、市民のみなさんがもっと身近に思ってもらいたい、皆の思い出の場所になることを願って活動しています。
川や水辺の名称	愛知川 (東近江市御河辺橋付近)
発 表 内 容	<p>愛知川は東近江市を代表する河川なのに人のいない川になっています。子どもの時の思い出は、野や川で遊んだときのことが一番だ。そこで、愛知川が、再び皆の思い出の場所になることを願って活動しています。</p> <p>愛知川塾は、次のような活動を行っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> 愛知川についての勉強会 愛知川の自然についての P R 活動 J R 駅、小学校、福祉施設への「愛知川水族館」の巡回展示 愛知川のめぐみの P R 活動 市内のイベントにおいて、愛知川で獲れた小鮎の天ぷらの試食・販売 愛知川の景観を守る活動 河川内の樹木の伐採、景観保持と災害防止 愛知川の清流を復活、守る活動 インターネットブログ「愛知川だあーいすき」で 2008 年より掲載中

(A - 3)

団 体 名	山内エコクラブ
活 動 概 要	調査、自然体験、交流、川文化など
川や水辺の名称	野洲川（甲賀市土山町黒川）
発 表 内 容	<p>滋賀県土山町山内地区と沖縄県糸満市米須地区及び滋賀県永源寺町山上地区の子どもたちが、今夏、野洲川源流で環境体験学習を行い、自然保護と里山文化について交流しました。</p> <p>さらに山内地区の子どもたちが米須地区に出向き、地域文化を活かした地域まるごと博物館の取り組みに触れました。</p> <p>川がある所とない所の比較、海がある所とない所の比較を通して、水と暮らし、川と生き物などについて考えたことを報告します。</p>

(A - 4)

団 体 名	滋賀県 湖東土木事務所
活 動 概 要	河川管理者として、河川の工事・維持管理を実施しています。
川や水辺の名称	犬上川（彦根市八坂町 犬上川右岸）
発 表 内 容	<p>湖東土木事務所管内には犬上川という大きな川があります。犬上川の河口では、特定植物群落のタブノキや危急種であるハリヨやタコノアシ、希少種のビワマスが生息し自然豊かな河川環境を形成しています。</p> <p>犬上川の河口では、台風などによりたびたび大きな水害が発生していたため、河川の改修工事を進めています。この豊かな自然環境をすこしでも残せるよう県立大学と相談し、タブノキを河川の中に中之島という形で残すなどの取り組みをしてきました。</p> <p>このように改修工事が進められる中、一時予算の減少などで事業が中断され、平成24年11月から再開した工事において保護すべきエリアのタブノキを伐採してしまうという重大な失敗を犯してしまいました。</p> <p>今後このようなことを起こさないために、起きた原因と対応について話したいと思っております。</p>

(A - 5)

団 体 名	琵琶湖河川レンジャー有志
活 動 概 要	住民と住民ならびに住民と行政の連携・協働のコーディネーター(つなぎ役)として活動
川や水辺の名称	琵琶湖とその周辺河川
発 表 内 容	<p>琵琶湖河川レンジャーは、現在7名が任命され活動しています(活動休止中1名を含む)。琵琶湖およびその周辺で、川に関する地域の方々の思いや、事業を行う行政の声を引き出し、それらをつなぐ調整役をしています。活動を行っている各レンジャーの活動テーマと現在の活動内容です。</p> <p>佐々木レンジャー：川辺に交流の場をつくる 旧洗堰の利活用(思い出づくり)と交流の場づくりをしていきます。</p> <p>平山レンジャー：川への想いを共有し、課題解決に向けて 瀬田川一斉清掃の感想や意見をまとめ、ウォーターステーション琵琶で公表していきます。</p> <p>伊東レンジャー：住民と行政の連携による琵琶湖の水草対策 琵琶湖の水草対策について、住民、行政がともに取り組んでいけるよう、住民の方への周知活動を行っています。</p> <p>安居レンジャー：暮らしと川のつながり再発見 愛知川でさまざまな活動に参加しながら、川と流域住民の関わりについて調査し、まとめています。</p> <p>原田レンジャー：子育て中の保護者と行政・地域住民との交流の場づくり 子育て世代の河川への関心を高める「きっかけ」の場『アクアちゃん広場』を開催しています。</p> <p>池本レンジャー：川への想いの情報紙発行 川や川辺の暮らし、施設、活動、仕事など、川にまつわる風景を元に情報紙を発行し、川辺と人をつなぎます。</p>

(B - 1)

団 体 名	NPO法人 瀬田川リバプレ隊
活 動 概 要	地域に流れる小さい河川や瀬田川における維持管理活動を実施しています。
川や水辺の名称	高橋川および瀬田川(大津市神領町)
発 表 内 容	<p>地域に流れる小さい河川の清掃(高橋川)および瀬田川バイパス高架下付近、瀬田川洗堰 100 周年記念事業で河川敷に植え付けられたコムラサキシキブ周辺の維持管理活動を毎月 10 日・25 日に実施しています。</p> <p>1 年間、夏の暑い日、極寒の冬の日、遠方より又地元の人達に参加いただいた熱意を今年も伝えに参りました。今年も大きな変化はありませんが、小さな活動、このような活動の輪が広がる事を特に期待して、今年も参りました。</p>

(B - 2)

団 体 名	琵琶湖博物館 環境学習センター
活 動 概 要	地域、学校、行政、企業、個人から団体まで、みんなの環境学習をサポートしています
川や水辺の名称	県内全域
発 表 内 容	<p>琵琶湖博物館環境学習センターでは、皆さんからの環境学習のご相談に答えています。例えば・・・</p> <p>川で生きもの探しをしたい！</p> <ul style="list-style-type: none">・・・お魚博士や川保全活動団体、水生生物専門家などを紹介します。 <p>川で環境学習したい！</p> <ul style="list-style-type: none">・・・自然の状況や対象とする人(幼児から大人まで)に合わせて、環境学習のプログラムや運営方法を企画します。 <p>琵琶湖や川、環境問題などの本やビデオがみたい！</p> <ul style="list-style-type: none">・・・全部で 450 本以上のタイトルからお選びいただけます。 <p>子ども活動を発表したい！</p> <ul style="list-style-type: none">・・・こどもエコクラブにご登録ください。毎年 12 月に琵琶湖博物館で活動発表会を行っています。 <p>http://www.ecoloshiga.jp にアクセスください。</p> <p>講師や本、ビデオ、学習施設の情報が満載です。</p>



(B - 3)

団 体 名	東近江市立 能登川南小学校
活 動 概 要	水質・生物調査
川や水辺の名称	山路川（東近江市猪子町～山路町）
発 表 内 容	<p>東近江市立能登川南小学校が取り組んでいるエコ活動についての発表です。</p> <p>里山である猪子山を活動場所として全校で取り組んでいる「猪子山活動」、八日市南高校のお兄さんお姉さんといっしょに活動する「森林再生」、校区を流れる山路川を活動場所として5年生が取り組んでいる「山路川博物館」、エコスクール委員会の水・電気・ごみグループの取り組み、洗剤を使わず水環境に配慮した「EM菌を使ったプール掃除」、PTAと連携した「緑のカーテン事業」について発表をします。</p>

(B - 4)

団 体 名	公益財団法人 京都地域創造基金(母なる川・保津川基金)
活 動 概 要	琵琶湖淀川水系である保津川流域の課題解決に取り組む市民活動団体のネットワークづくりと活動資金支援のためのファンド運用
川や水辺の名称	保津川・上桂川・大堰川（亀岡市 京都市 乙訓郡大山崎町）
発 表 内 容	<p>琵琶湖淀川水系である保津川流域の課題解決に取り組む市民活動を支援するために、17 団体が設置申請をして 2010 年 4 月に立ち上げた「母なる川・保津川基金」。市民や企業から寄付を募り、助成金として各市民活動団体に届けています。全国的にも珍しいテーマ・地域課題に沿った市民ファンドです。</p> <p>多くの人が基金に関われるように、寄付付き商品の開発や募金箱の設置に特に注力。日本酒（佐々木酒造）や保津町の特産品、保津川の昔を知れる冊子や絵はがき、書籍などバラエティに富んだ商品を展開しています。3 月にはチャリティマラソンを実施する予定です。</p> <p>2012 年 6 月、有識者による選考会を行い、4 つの市民活動団体に寄付金を助成しました。海ごみ問題を川から考えるサミット、嵐山周辺の川の清掃、川の清掃に取り組む複数の団体の協働を進める試験的清掃活動、親子で川に親しむカヤック事業を支えました。</p> <p>現在、全事業が終了し、助成先事業報告会とともに保津川流域で活動する市民団体のネットワークづくりの場の開催準備に取り組んでいます。また、第 2 回助成に向けた寄付集めも進めています。</p>

(B - 5)

団 体 名	いきものみつけファーム滋賀推進協議会
活 動 概 要	身土不二、地産地消に立脚した農産物の生産と安全安心な食と生命について考える環境学習を展開しています。
川や水辺の名称	県内河川や水路
発 表 内 容	河川や琵琶湖の水質保全には、濁水を流さないことに加え、田畑で有機物が循環することが重要です。そこで、自然循環型農法により「土の力」の再生を試み、田畑や水路、河川に多様な生物が棲息できる環境をとり戻すために「いきものみつけファーム滋賀」を設立しました。身土不二、地産地消に立脚した農産物の生産と安全安心な食と生命について考える環境学習を展開し、目の前の川や水路を豊かな水辺へと再生する思いとプロセスについて報告します。

(C - 1)

団 体 名	巨木と水源の郷をまもる会
活 動 概 要	巨木調査、トチノキ見学会、トチノキ発表会、栃の木祭り、びわ湖源流の森事業、他団体との交流、展示会、講演、執筆、ガイド、巨樹・巨木の森整備事業への協力等
川や水辺の名称	安曇川支流の北川、針畑川、安曇川本流の枝谷（高島市朽木一帯）
発 表 内 容	<p>びわ湖の源流域、旧朽木村で数年前から、トチノキ巨木伐採が始まりました。伐採された樹はすべて数百年を経た樹木で、これからもまだまだ、源流を守ってくれるはずの巨木が、銘木業者により、抜き伐りされ、大型ヘリコプターで運び出されました。</p> <p>2010年10月、びわ湖源流の崩壊を危惧した人々が、地域の人たちと共に「巨木と水源の郷をまもる会」を立ち上げました。現在は、係争中のため一旦伐採は止まっていますが、いつまたトチノキは伐り始められるかわかりません。ただ、この問題は自然保護だけにかかわる問題ではなく、背景に潜む、様々な社会問題が複雑に絡み合い生じた問題です。そこで、私たちは、源流の森の保全と源流の郷の生活や、森林をめぐる生活文化の保全に目を向けながら活動をしています。また、源流域の人々も、下流域の人々も、「一滴から始まる源流の森へ」を合い言葉に、互いに源流に思いをはせ続けることが、源流の森をまもる原動力になるのではと、活動を続けています。</p> <p>源流の森の映像詩“トチノキの叫び”を見ていただきながら、私達の保全活動をお聞き下さい。</p>

(C - 2)

団 体 名	竜王清流会
活 動 概 要	河川環境美化作戦 ～子どもたちにきれいな川を～
川や水辺の名称	善光寺川（蒲生郡竜王町）
発 表 内 容	<p>竜王 IC から国道 8 号へ伸びる全長 4km、一級河川で砂防河川である「善光寺川」は、かつて「七里河原」と呼ばれ、白砂がまぶしい河川敷でした。砂防事業で一時は整備されたもののその後放置されジャングルのような状態となってしまいました。</p> <p>そこで、何とか子どもたちが寄りつける以前の姿に戻そうと、有志によるボランティア団体を立ち上げ、雑草木の伐採やゴミ拾いなど取り組むこととしました。</p> <p>当初は、並走する国道 477 号の通行に支障を来すほど大きく成長した雑木の伐採から始め、切り取った草木の集積、チップ化を行いました。</p> <p>近年は、草との闘いが続いており、春と秋にそれぞれ 2 日ずつ「河川環境美化作戦」として、河床・法面などの草刈り作業を行っています。</p> <p>毎回 100 名を超えるボランティアの方々にご参加いただいておりますが、参加者の固定化が見られ、ボランティアの広がりが課題となっています。</p>

(C - 3)

団 体 名	アイキッズ～エコアイデアキッズびわ湖～
活 動 概 要	人と人とのつながりを大切に琵琶湖の魚を使った伝統食づくりを通して、ふるさとへの愛着を深める。
川や水辺の名称	琵琶湖・狼川（草津市野路東）
発 表 内 容	<p>アイキッズは、草津市のパナソニック社を拠点に狼川やびわ湖で活動することもエコクラブです。</p> <p>滋賀の伝統食である「なれずし」、「湖魚の佃煮」、「アメノイオご飯」づくりにチャレンジしました。なれずしづくりでは、漁師さんや農家さんを訪れ、お米やお魚を分けてもらい、郷土料理の研究者さんに作り方を教わりました。様々な方と出会い、ふるさとや食に対する思いを聞きました。滋賀の人々は、昔からびわ湖の恵みをいただきながら水辺と共生してきたことに気づき、ふるさとやびわ湖に対する愛着を深めることができました。発表では、わたしたちがチャレンジした「なれずし」づくりについて紹介します。</p>

(C - 4)

団 体 名	徳山環境保全会
活 動 概 要	堤防法面に彼岸花を植栽することを通して景観形成と併せて村作りを図る。
川や水辺の名称	草野川（長浜市徳山町付近）
発 表 内 容	<p>草野川は伊勢湾台風で当集落の堤防が決壊し多くの田が流出した。その後災害助成事業で復旧工事が行われ、大改修が行われた。近年ではそういった記憶も薄れ、日頃川との関わりも疎遠になっている。</p> <p>ところが堤防が通学道路に指定され、ウォーキングを楽しむ人が多くなったことから堤防に花を植えようと案が持ち上がった。検討の結果、昔ならお彼岸になると当たり前のように咲いていた彼岸花が、水田の圃場整備等でめっきりその姿を消してしまったことに気づき、もう一度彼岸花を復活させようと過去6年間彼岸花の植栽に取り組んできました。その経緯と1年を通した取り組みの様子を発表します。</p> <p>「具体的な発表事項」</p> <p>「戸惑いと大きな不安の中でスタートした」その時の様子</p> <p>取り組みが区民のみんなのものとなるために取り組んだ工夫と手立て</p> <p>1年間の具体的な取り組みの様子</p> <p>「6年経って彼岸花が咲き誇るようになった」その様子</p> <p>現在の課題</p>

(C - 5)

団 体 名	おにぐるみの学校
活 動 概 要	木の岡 ^{おか} ビオトープの貴重な自然環境を保全し、環境学習等のフィールドとして適正な利活用を図る。
川や水辺の名称	木の岡 ^{おか} ビオトープ (大津市木の岡町)
発 表 内 容	<p>おにぐるみの学校は、木の岡^{おか}ビオトープの貴重で豊かな自然を保全し、環境学習や体験学習などのフィールドとしての適正な利活用を図るために活動している。</p> <p>これまでの継続した活動により、下阪本小学校の校外学習の一環として、2年生の環境学習をおにぐるみの学校にお願いしたいとの申し出があった。</p> <p>その内容は、おにぐるみの学校に一任されたことから、子どもたちに木の岡^{おか}ビオトープの存在を知ってもらい、体験してもらうことを目的に、生き物観察やネイチャーゲームを実施し、その講師等をおにぐるみの学校の運営委員 (自治会の住民、専門家、近隣企業など) が担っている。これは、運営委員のモチベーションの維持にもつながっている。</p>

Memo

Memo